



ロボット支援手術100症例 達成のご挨拶

外科 統括部長・副院長 竹村雅至

当院では2025年2月にDaVinci手術開始後100例の節目を迎えました。手術支援ロボットDaVinci Xiは2023年9月に当院に搬入され、様々なトレーニングと他院の手術見学などの準備を行い2024年1月に泌尿器科が前立腺癌に対して初症例を開始しました。次いで2月より外科が直腸癌に対して手術を開始し、以降順調に症例を重ね2025年2月に100例の節目に到達しました。手術支援ロボットDaVinciを用いた手術は従来の腹腔鏡手術とは異なるトレーニングや手順が必要ですが、腹腔鏡手術の様々な利点を活かしつつ、その欠点を補える利点を有しているため、高コストにもかかわらず急速に普及が進んでいます。これに伴い、当院で行なっている消化器外科領域・泌尿器科領域の手術だけでなく、呼吸器外科・婦人科・心臓血管外科領域の手術にも適用が広がってきています。¹

現在DaVinciによる手術は消化器外科領域の様々な疾患に対して適用があり、今後さらに適用が広がることが期待されています。当院では、当初直腸がんに対して適応しましたが、結腸がん・胃がんに対して施行可能な体制を整え順次適応拡大を図りました。現在は術者資格外科医は3名に増加し、より多くの患者さんにDaVinciによる手術をお届けできる体制が構築できるとともに、さらに食道がんに対しても手術を開始する予定としております。



全累積症例数

2025年2月 100例達成



詳しくは、ロボット支援手術のページをご覧ください。



当院では低侵襲手術を積極的に適応し、全身麻酔手術の80%以上を腹腔鏡下に行なっている腹腔鏡下手術の非常に多い施設であるとともに、患者さんのQOLを改善する手術の導入に積極的に取り組んでいます。我々は今後も患者さんに有用な新しい外科技術を積極的に取り入れることで、地域の患者さんに安全・安心できる治療を提供できるように努めてまいります。